

知的固定学級国語科学習指導案

日 時 令和7年11月27日(木)
第5校時 13:30～14:15
対 象 第4学年 4名
第5学年 1名
授業者 貫井 良史
会 場 2階 みどりA3・4組教室

1 単元名 自分の体験と結び付けて読もう(6/12時間)

教材名 「いまから ともだち」(作:くすのき しげのり 絵:たるいし まこ 【東洋館出版社】)

2 単元の目標

- 語のまとまりや言葉の響きに気を付けて、音読することができる。 [知識及び技能](1)ク
- 「読むこと」において、場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
[思考力、判断力、表現力等]C(1)エ
- ◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。
[思考力、判断力、表現力等]C(1)オ
- 言葉がもつよさを感じながら楽しんで音読し、思いや考えを伝え合おうとする。
[学びに向かう力、人間性等]

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク	① 「読むこと」において、場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像している。(1)エ ② 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(1)オ	① 今までの経験を生かして、積極的に主人公の行動と自分の体験とを結び付け、読み方を工夫して読み聞かせに生かそうとしている。

4 単元について

(1) 学習指導要領上の位置付け

小学校学習指導要領 国語科における低学年の目標に、

(2)順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。

と書かれている。このことから、文章の内容を捉え、既存の知識や体験と結び付けて自分の思いや考えをもつことができるように重点的に育成していきたい。本単元においては、本文の記述と児童の転校という実際の経験を結び付けて、主人公の行動を具体的に想像したり感想をもったりする力を付けさせていこうと考える。

また、特別支援学校学習指導要領総則編 国語 小学部[国語]の目標に、

(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。

と書かれている。本単元の学習で身に付けたことを日常生活でも生かすことができるように、連続性のある指導をしていくことも合わせて必要と考える。さらに、自立活動の側面からも指導をしていく。(別紙「個別の実態と課題」参照)

(2) 教材観

本教材は、小学生の女の子が望まない転校をして山間の小さな分校に来た場面から始まる物語文である。国語の学習グループは、5名全員が転校や校内から転級をして、本校の特別支援学級(みどりA学級)に在籍している。様々な経験を振り返りながら主人公の気持ちを考えたり、想像したりしやすいと考える。また、単元に入る前に自分の前籍校を友達に紹介する機会を総合的な学習の時間として設定し、本単元の読み取りに関わる前段階としてあらかじめ指導しておく。このように、他教科ともつながりをもたせながら、主人公の言葉や行動から心情を具体的に想像したり感想をもったりすることができるようにする。

単元末には、他グループの児童に音読をする言語活動を設定する。ゴールを明確にするとともに相手意識をもたせることで、より分かりやすく音読することへの意欲を高め、主体的な学びにつながると考える。児童は毎日の授業で学んだことや自分のこれまでの経験を生かし、進んで感情を込めて音読するといった工夫に取り組むだろう。また、他学年との連携による協働学習は相互評価を得る機会となり、児童が大きく自信を得られるだろう。このことにより「学年が上がるとこんなことができる」「下学年の発表よりもいいものを目指そう」という、更なる主体性につながることを期待している。

5 児童について

目指す児童像(みどりA学級)

個別の課題に向き合い、目標の達成に向けて意欲的に取り組むことができる児童

(1) 児童観

みどりA学級は知的障害の固定学級であり、知的障害、自閉スペクトラム症(ASD)、学習障害(LD)、注意欠如多動症(ADHD)などの障害特性をもつ児童同士が、それぞれの発達段階に合わせて学年を越えた集団で学習・生活をしている。児童による個人差が大きい中で個々の目標を設定し、達成できるように支援しながら指導している。

知的障害のある児童の学習上の特性として、以下のようなものがある。

- ① 学習によって得た知識や技能は断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくい。
- ② 成功体験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていない。
- ③ 生活経験が不足しがちである。
- ④ 興味・関心の幅が狭い。
- ⑤ 抽象的な内容より、具体的な内容の指導がより効果的である。
- ⑥ 自閉スペクトラム症(ASD)を兼ね合わせている児童は、想像することが苦手で相手の立場になって考えることが難しい。(本グループの1名該当)

以上の特性をふまえ、国語科と算数科の指導では、児童の実態に応じて7つのグループに分けて指導している。学習したことを実際の生活に生かせるように具体的に体験したり、これまでに経験したことを振り返って考えたりするように指導している。

前期（４～１０月上旬）には説明文と物語文の学習に取り組んだ。説明文の学習では、記述を基に重要な語句を見付けたり、文章構造（「はじめ」「中」「終わり」）を確認しながら「問い」や「答え」を見付けたりする力を付けてきた。単元のまとめとして、学習したことを生かしてクイズを作り、他グループの児童に発表する言語活動に取り組んだ。

また、物語文の学習では、本文の記述を基に登場人物の気持ちを想像したり、台詞を工夫して音読したりする力を付けてきた。単元のまとめとして、他グループの児童に読み聞かせをする言語活動に取り組んだ。後期（１０月上旬以降）、総合的な学習の時間では「学校しょうかいをしよう」という単元を設定し、他教科とも連動させて教科横断的に本時の学習を進めてきた。

（２）目指す児童の姿

（１）の実態や学習経験をふまえて、児童５名（Ａ児、Ｂ児、Ｃ児、Ｄ児、Ｅ児）が本単元の学習に取り組む。文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができるように力を付けていくことを目標としている。

６ 研究主題に迫るための手だて

個人間差異	想定される課題	本単元で行う手だて	該当児童
進度の違い	・理解に差があるため、読み取りに時間がかかったり、支援が必要になったりする。	・読み取りの際には、一斉指導で内容の確認や理解を全体指導する。 ・音読は自分のペースで取り組む。	A児 B児 D児
	・漢字の読み取りについては児童によって漢字の学習内容（既習事項）が異なるため、読めない漢字がある。	・漢字にふりがなを振る。 ・習熟度に合わせたグループ編成。	C児 E児
応用力の違い	・初めて取り組む活動や、経験したことがない事に対して不安や苦手さを感じる。	・授業をパターン化して、実施する。	A児 C児 D児
	・自分の意見や考えをもちにくかったり、書いたりするのが苦手である。	・ワークシートを２～３種類用意し、児童が自分で選ぶ。	A児 B児 D児
	・問われていることに対して、本文の記述から正しく読み取れない。	・児童の考えを確認する際に、本文のどの記述を基にして考えたのか確認する。	B児 D児
生活経験の違い	・興味や関心の幅がせまい。	・実際に体験したり、具体物を扱ったりする活動を取り入れる。	B児 D児 E児
	・自分が経験したことがないことに、共感することが難しい。	・本文の記述に関連する動画の視聴や新出語句を写真で確認、友達の経験を共有など、具体的なイメージをもたせる。	A児 C児 E児

7 単元の指導計画と評価計画（12 時間扱い） [: 個別最適な学び : 協働的な学び]

時	◇目標 ○主な活動	◆指導上の留意点 手だて	【評価規準】 〈方法〉
1 	◇範読を聞いて、初発の感想をもつことができる。 ○範読を聞き、感想を発表する。 ○単元のゴールを知り、学習の見通しをもつ。	◆主人公と同じような経験をしたことがあるか、場面ごとに思い出させる。	【態度】 〈観察・発言〉
2 	◇第一場面の【転校してきた主人公】の気持ちを考え、自分の体験と結び付けることができる。 ○音読(一人、ペア、全員)、登場人物の確認、主人公の心の声を確認し、気持ちを考える。	◆「学校しょうかいをしよう」で作成したスライドを振り返ることで、主人公と同じような経験を想起できるようにする。 スライド	【思・判・表】 ①② 〈発言・ワークシート〉
学びの個別化・個性化 ※第2時～第9時まで共通 他校からの転校生に対する発問 本校(通常級)からの転級生に対する発問 入学時から在籍の児童に対する発問			
3 	◇第二場面【うそをついた主人公】の気持ちを考え、自分の体験と結び付けることができる ○音読(一人、ペア、全員)、登場人物の確認、主人公の心の声を確認し、気持ちを考える。	◆自分の経験を基に考えられるように、道徳の授業で[正直、誠実]について学習したことを振り返らせる。 道徳のワークシートや発言	【思・判・表】 ①② 〈発言・ワークシート〉
4 	◇第三場面【みんなにやさしくされた主人公】の気持ちを考え、自分の体験と結び付けることができる。 ○音読(一人、ペア、全員)、登場人物の確認、主人公の心の声を確認し、気持ちを考える。	◆「学校しょうかいをしよう」で作成したスライドを振り返ることで、主人公と同じような経験を想起できるようにする。 スライド	【思・判・表】 ①② 〈発言・ワークシート〉
5 	◇第四場面【走った後、優しくされた】主人公の気持ちを考え、自分の体験と結び付けることができる。 ○音読(一人、ペア、全員)、登場人物の確認、主人公の心の声を確認し、気持ちを考える。	◆体育の授業や休み時間に、1年生と競走したり鬼ごっこをしたりしたこと振り返り、主人公と同じような経験を想起できるようにする。 授業や休み時間の振り返り	【思・判・表】 ①② 〈発言・ワークシート〉

6 本時 	◇第五場面【みんなが探している石を持っている】主人公の気持ちを考え、自分の体験と結び付けることができる。 ○音読(一人、ペア、全員)、登場人物の確認、主人公の心の声を確認し、気持ちを考える。	◆自分の経験を基に考えられるように、道徳の授業で[正直、誠実]について学習したことを振り返らせる。 道徳のワークシートや発言	【思・判・表】 ①②〈発言・ワークシート〉
7 	◇第六場面【初めて一生懸命掃除をした主人公の気持ち】を考え、自分の体験と結び付けることができる。 ○音読(一人、ペア、全員)、登場人物の確認、主人公の心の声を確認し、気持ちを考える。	◆「初めて一生懸命掃除をした」という主人公の気持ちと、第一場面～第五場面まで読み取ってきたこと関連付けて考えさせる。 これまでの学習内容 (第一場面～第五場面)	【思・判・表】 ①②〈発言・ワークシート〉
8 	◇第七場面【帰りの会ですぐに友だちができると思ってなかった主人公の気持ち】を考え、自分の体験と結び付けることができる。 ○音読(一人、ペア、全員)、登場人物の確認、主人公の心の声を確認し、気持ちを考える。	◆「学校しょうかいをしよう」で作成したスライドを振り返ることで、主人公と同じような経験を想起できるようにする。 スライド	【思・判・表】 ①②〈発言・ワークシート〉
9 	◇第八場面【いまから友だちになってくれるみんなに対する主人公の気持ち】を考え、自分の体験と結び付けることができる。 ○音読(一人、ペア、全員)、登場人物の確認、主人公の心の声を確認し、気持ちを考える。	◆自分の経験を基に考えられるように、道徳の授業で[友情、信頼]について学習したことを振り返らせる。 道徳のワークシートや発言	【思・判・表】 ①②〈発言・ワークシート〉
10 	◇主人公の場面ごとの気持ちの変化を考えることができる。 ○ワークシートに、主人公の気持ちがどのように変化したかまとめる。 ワークシートは、気持ちの変化を5段階から選ぶものにする。	◆児童の考えを確認する際に、本文のどの記述を基にして考えたのか確認する。 これまでの学習内容 (第一場面～第八場面)	【思・判・表】 ①②〈発言・ワークシート〉

11 	◇音読発表会の練習をすることができる。 ○主人公の気持ちの変化を意識しながら、音読を工夫して読み聞かせの練習をする。	◆7月の読み聞かせの様子を振り返り、発表の改善点などに気付かせる。 7月の発表の動画	【知・技】 〈観察・音読〉
12 	◇1～6年生に発表することができる。 ○みんなの前で音読を工夫しながら読み聞かせをする。 ○発表したり、読み聞かせを聞いたりした感想を、相互に伝え合う。	◆7月の読み聞かせが終わったときの感想を示し、前回と比較して感想がもてるようにする。 7月の発表後の感想	【態度】 〈観察・発表〉

8 本時（全12時間中の第6時）

(1) 本時の目標

文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。※詳細は個別の実態表参照(別紙)

(2) 本時の展開 [: 個別最適な学び : 協働的な学び]

学習形態	○学習内容 ・ 学習活動	◆指導上の留意点、配慮事項 【評価規準】〈評価方法〉 手だて
導入 5分 	○本時の流れの確認と、これまでの学習を思い出す。 ・めあてを確認する。 自分の体験をもとに、主人公の気持ちを考えよう。	◆本時の流れを黒板に掲示する。
展開 (1)  15分 	○音読(一人、ペア、全員)をする。 ○第六場面【みんなが探している石を持っている】主人公の気持ち(心の声)を確認する。 T: どうして、友達の石を持ってるの? S: 拾ったから。 T: 他の子が探していたら、すぐに言えますか? S: 言えるよ。 T: 転校した日でも? S: うーん、どうだろう…。 T: さて、主人公はどんな気持ちなのか、本文に書いてある言葉を基にして、考えてみましょう。 ○考えた気持ちを発表する。	◆一人読みが終わったら、ペアを作らせる。ペアが終わったら、全体で読む。 (心の声) 「どうしよう、みんなが探している。私が持っていることを知ったらみんな、私のこと嫌いになる。」 ◆心の声には()を付けて児童が気付けるようにする。 ◆児童が気持ちを考えるときに、根拠となった本文の記述を確認する。

展 開 (2) 20 分 	○自分の体験したことを振り返り、感想を発表する。 T: 同様な体験をしたことがある人はいますか？ S: ないと思う。 S: ぼくはあるよ。 T: ○君は、前の学校で言いたかったけど言えなかったことはどんなことですか？ S: ～です。 T: そんなことがあって、今回の話を読んでどう思いましたか？ (自分の体験と結び付けて感想をもっているか確認する。) S: 前の学校(クラス)で、同様なことがあったから、主人公の気持ちがわかるよ。 T: なるほど。→他に発表できる子を促して指名する。できれば全員が発表する。	主人公と同じように、言いたいけれど言えなかった経験がないか、事前に総合の授業で「学校しょうかいをしよう」のスライドを作成し、振り返っておく。 ◆「学校しょうかいをしよう」のスライドを確認し、同様な経験をしたことを思い出せるように、タブレットを準備させておく。 ◆ワークシートは児童の実態に応じて、事前に複数用意して児童にできそうなものを選択させる。体験したことを基に、感じたことを書かせてから発表させる。 【思・判・表】①② 発表のときには、児童の体験を引き出せるように発問を工夫する。 (発言・ワークシート)
終末 5 分 	○本時の目標に対する振り返りをする。 ○次時の学習について見通しをもつ。	◆本時のめあてを再度確認し、読ませる。 ◆ワークシートに自己評価をして振り返る。 ◆できたことを評価し、黒板に花丸を付けて視覚化する。

(3) 本時の評価

評価規準	
「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。 【思考・判断・表現】	
本時で想定される児童の具体的な姿	具体的な支援方法
※個別の実態表参照	

(4) 板書計画

・体験して思ったこと
(ワークシート ↓ 発表)

F 児の考え

～

A 児の考え

・主人公の気持ち

「いまから 友だち」

本文

(心の声)
「どうしよう、みんなが探している。私が持っていることを知ったらみんな、私のこと嫌いになる。」

国語 一、音読
二、プリント
三、ふりかえり

② 自分の体験を 基にして考えよう。

